

公立大学法人島根県立大学
令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果
(素案)

令和 2 年 8 月

島根県公立大学法人評価委員会

1 評価にあたって

公立大学法人島根県立大学の令和元年度の業務実績に関する評価については、「公立大学法人島根県立大学の各事業年度の業務実績評価（年度評価）実施要領」に基づき、以下のとおり実施した。

(1) 島根県公立大学法人評価委員会委員

	氏名	役職
委員長	服部 泰直	国立大学法人島根大学長
委員	渋川 あゆみ	マザリ－産科婦人科医院助産師
委員	花田 紀美江	元松江市立女子高等学校長
委員	三島 明	公認会計士
委員	宮脇 和秀	株式会社ミック代表取締役社長

(2) 評価の方法

- ① 年度評価は、「全体評価」と「項目別評価」により実施した。
- ② 「全体評価」は、次に掲げる「項目別評価」の結果を踏まえ、中期計画の進捗状況全体について評価を行った。
- ③ 「項目別評価」は、大学法人から提出された業務実績報告書を検証し、年度計画の記載事項毎に5段階(5～1)で評価するとともに、中期目標項目別にS～Dの5段階で評価を行った。なお、「Ⅱ大学の教育研究等の質の向上」に関する項目については、5段階評価ではなく、進捗状況・成果を総合的に評価した。

[中期目標項目]

I	社会情勢の変化に的確に対応した大学づくり
II	大学の教育研究等の質の向上
III	自主的、自律的な組織・運営体制の確立
IV	評価制度の充実及び情報公開の推進
V	その他業務運営に関する重要事項

[中期目標項目別の評価基準]

(「Ⅱ大学の教育研究等の質の向上」に関する項目を除く)

評価	基準
S	特筆すべき進捗状況にある (評点平均値 4.3~)
A	順調に進んでいる (評点平均値 3.5~4.2)
B	概ね順調 (評点平均値 2.7~3.4)
C	やや遅れている (評定平均値 1.9~2.6)
D	大幅な改善が必要 (評定平均値~1.8)

評点平均値：年度計画各項目を5点満点で評価し、中期目標項目毎に平均値を算出したもの

なお、令和元年度からの第3期中期目標期間中の項目別評価については、評価の基準を下表により行うこととした(令和2年2月 島根県公立大学法人評価委員会決定)

評点	年度計画項目別評価の評価基準 (小数点以下第1位四捨五入)	
5	年度計画を大幅に上回っている	達成度は121%以上、かつ特に顕著な成果が得られたと判断できる場合/制度等が整備され、当該制度が他大学の模範となるような優れた機能を発揮している場合
4	年度計画を上回っている	達成度が101%以上120%以下/制度等が整備され、実際に機能している場合
3	年度計画を概ね達成している	達成度が91%以上100%以下/制度等が整備されている場合
2	年度計画を下回っている	達成度が71%以上90%以下/制度等の整備に関する検討段階である場合
1	年度計画を大幅に下回っている	達成度が70%以下/制度等に関する取組が行われていない場合

注) 評点の付け方について

- ・ ほぼ計画どおり達成した場合を「標準」とし3点を付す。4点以上は、進捗が計画以上である場合に付すことが基本である
- ・ 制度等を整備する計画の場合、計画に沿って当該制度等を整備した場合は3点を付し、整備された制度等が既に機能を発揮していると認められる場合に4点以上を付す

2. 全体評価

(1) 概要

島根県は、平成19年4月に地方独立行政法人法に基づく公立大学法人島根県立大学を設立した。前期に引き続き、令和元年度からの第3期6年間についても、島根県は大学が達成すべき目標(中期目標)を示し、大学の取組を促しているところである。

全国的に地方創生の取組が進められる中、地方公共団体が設置する公立大学には、これまで以上に地域課題の解決に向けた役割が期待されているとともに、地域や時代の要請に応え、特色ある、学生にとって魅力ある高等教育機関として発展し、地域へ人材を輩出していくことが求められている。

令和元年度の業務実績評価については、点数評価を行う項目の内、2つの大項目がB評価(中期目標の達成に向けて概ね順調)、2つの大項目がA評価(中期目標の達成に向けて順調に進んでいる)であった。

(2) 評価の視点

当評価委員会が大学運営・教育研究について、評価に際して考慮した事項を視点別に掲げると、以下のとおりである。

①学生の入学

- ・ 大学の魅力・特色を伝える積極的な入試広報に取り組んだ結果、全ての学部学科において高い志願倍率を確保し、特に、浜田キャンパス総合政策学部、松江キャンパス人間文化学部では、それぞれ8.90倍、7.90倍と昨年度を大きく上回った。
- ・ 入学者に占める県内者の割合については、浜田・松江(四大・短大)キャンパスで昨年度を上回り、特に、浜田キャンパスでは、昨年度の19.6%から28.2%へと大きく上昇し、全学でも、昨年を上回る46.8%(昨年度43.3%)となった。
- ・ 令和3年度には、浜田キャンパスにおいて新学部設置が予定されており、県内入学者比率を高める、あらたな入試制度によりスタートする。志願者確保に向けて、新学部についての情報発信や、県内高校との連携など万全な対応を期待する。

②学生の就職

- ・令和元年度卒業生の就職率は、浜田キャンパス 98.1%、出雲キャンパス 100% 松江キャンパス 100%と各キャンパスとも昨年度に引き続き高い水準を維持した。
- ・一方、就職希望者に占める県内就職者の割合については、35.9%に留まり、昨年度(同 45.6%) から、大きく減少した。
- ・キャンパス毎の県内就職率の変化に、大きな増減はなく、短期大学の4年制化に伴い、県内就職の割合が高い短大部の卒業生が大幅に減少したこと、県内学生が多い松江キャンパス(人間文化学部)、出雲キャンパス(健康栄養学科)が学部完成前のため卒業生の輩出がないことによるものであり、数値目標設定時に想定されていたものである。
- ・今後、県内入学生の確保に向けた入試改革の取組のほか、大学COC+事業を引き継ぎ、大学と企業、県等が設立するコンソーシアムの取組を通じて、学生が地元企業を知る機会の創出や、インターンシップの充実など、県内就職率を高める取り組みを着実に推進されたい。
- ・また、4年制化により、令和4年3月に初めて卒業生を輩出する松江キャンパス人間文化学部、出雲キャンパス健康栄養学科については、学生が就職活動を開始する今年度(令和2年度)からの就職先確保のための取組の着実な実施を望む。
- ・特に、短期大学から4年制大学に移行した松江キャンパス人間文科学部においては、県内就職先企業と大学との関係構築など、四大生の企業開拓に向けた取組への注力を望む。

③地域貢献

- ・地域課題解決に資する専門知識と実践力を備えた人材育成の取組として、「しまね地域マイスター」認定制度を設けているが、浜田、出雲キャンパスに続いて、松江キャンパスにおいても「しまね地域マイスター」認定制度の運用を開始した。
- ・また、昨年度のマイスター1期生8名に続き、浜田キャンパスの6名及び出雲キャンパスの2名の学生が「しまね地域マイスター」の認定を受け、地域に貢献する人材を輩出することができた。こうした取り組みは、中期目標に掲げている、主体的に問題を発見・整理・解決できる実践力を兼ね備えた人材の養成につながるものとして評価したい。
- ・4月に新設した、しまね地域研究センターにおいては、「しまね地域研究センタープロジェクト研究助成金」制度を設け、自治体や中山間地域研究センター等と連携して、地域課題解決に向けて取り組んだ。
- ・引き続き、地域の抱える課題や県立大学に対する地域のニーズを敏感に察知した

上での取組の推進に期待する。

④国際交流

- ・海外への学生の派遣については、今年度から、あらたに、短期海外体験プログラム（超短期マレーシア）を創設するなど、海外交流の取組を強化し、数値目標（180人）を超える210人の海外研修参加希望者を得たが、残念ながら、新型コロナウイルスの影響により2月以降の研修が中止となり、最終的には156人に留まった。
- ・海外からの受入学生数（留学者、研修等）は107人（浜田キャンパス80人、出雲キャンパス13人、松江キャンパス14人）となり、数値目標を達成した。
- ・これまでの取り組みの成果から、国際交流参加希望者は、年々、増加しており、今後、更なる取組を期待する

（3）総括

以上のことから、第3期中期目標期間の1年目である令和元年度の業務運営は、「中期目標の達成に向けて順調に進んでいる」と評価する。

[今後に向けた留意点]

<ul style="list-style-type: none">・・・・・・ <p>評価委員会での意見交換を踏まえて記載</p>

3 項目別評価

1 社会情勢の変化に的確に対応した大学づくり

(1) 評価結果と判断理由

- 計画項目の集計結果では、A評価（順調に進んでいる）である。
 - ・ 第3期中期計画で予定している新学部学科への改編については、令和3年度設置に向け、順調に手続きが進むとともに、県内入学者比率の向上に向けた入試制度改革も、全学方針が策定されるなど、大学の新たな体制・組織づくりへの取組が認められることから、中期目標の達成に向けて順調に進んでいると認められる。
- 以上により、中期目標項目評価としては、A評価（順調に進んでいる）と評価する。

A	順調に進んでいる	評点平均値 4.00
---	----------	------------

(2) 実施状況

① 全学

- ・平成31年4月、事務局に新学部学科設置等準備室を設置し、新学部学科設置等準備委員会及び同委員会の下に設置したカリキュラム検討部会等を中心に審議を重ね、令和元年10月に、新学部の教育組織や教育課程について決定し、文部科学省へ設置の届出（令和2年4月）を行った。
- ・第3期中期計画において掲げる県内入学者比率の向上を進めるため、大学改革本部会議の中に、入試改革検討部会を設け、入試改革の全学方針を策定した。
- ・入試改革の全学方針策定にあたっては、平成31年4月から設置したIR（Institutional Research）室において、入試結果等の分析を行い、反映させている。
- ・このほか、大学改革本部会議では、障がいのある学生の修学支援等の検討や、独自の奨学金制度の見直しを行う、学生支援検討部会の設置や、出雲キャンパス、松江キャンパスの大学院設置の必要性について検討を行う大学院検討部会の立ち上げ、議論を行った。
- ・地域課題研究への取り組みとして、平成31年4月に設置したしまね地域研究センターにおいては、子育て支援、観光、地域活性化、隠岐・中山間地域、地域教育をテーマとした研究を展開した。

- ・全学運営組織として、教養教育推進センターを設置し、その下に、教養教育の質の向上を図るための基礎教養部と、県内高等学校との協働による高・大の接続を図るため高大連携室を設置した。

② 浜田キャンパス

- ・全学の取組のとおり、新学部設置に向けて、2学部2学科5コースの教育課程の編成や入試制度の設計を行った。特に、地域づくりコースについては、実践的な人材育成に資する6名の教員の新規採用を決定するとともに、入試制度において、連携校推薦を創設し、高校と大学が入試を通じて県内高校生を「共に育てる」仕組みの構築や、特色化を図った。

③ 出雲キャンパス

- ・平成31年4月に、地域看護の中核的な役割を担う高水準の専門知識や研究分析能力を有する看護人材を育成するため、大学院看護学研究科に博士後期課程を設置し、5名を受け入れた。
- ・令和2年4月から、看護学専攻の博士前期課程に、高度実践者養成コースとして、高度症例への対応や県内の産婦人科医の不足と偏在に対応するため、助産学領域を設けるとともに、中山間・離島地域を中心に、医師不足を補い在宅医療を推進するため、NP（診療看護師）プライマリ・ケア領域の設置に向け申請を行い、それぞれ、令和元年8月、2月に設置認可を受けた。

II 大学の教育研究等の質の向上

(1) 高い知性と豊かな人間性を育み、社会に役立つ人材を輩出する大学

(評価の視点)

質の高い教育の提供や学生に対するきめ細やかな支援がなされ、幅広い教養、知識、課題発見・解決能力、変貌する経済・社会への対応力を有した人材を育成できているか。

(特筆すべき点 (注目される点))

① アドミッション

ア) 全学

- ・大学の魅力・特色を伝える積極的な入試広報に取り組んだ結果、全ての学部学科において高い志願倍率を確保し、特に、浜田キャンパス総合政策学部、松江キャンパス人間文化学部では、それぞれ 8.90 倍、7.90 倍と昨年度を大きく上回った。
- ・県内高校への働きかけを通じて、入学者に占める県内学生の割合(全学)を 50% とする目標に対して、全学で、昨年度(43.3%)を上回る、46.8%となった。
(浜田：28.2%、出雲：53.5%、松江：54.7%、短大：77.6%)
- ・今後、更なる県内入学者比率の向上を進めるため、入試制度改革において、連携校推薦を創設し、高校と大学が入試を通じて県内高校生を「共に育てる」仕組みの構築や、新設した高大連携室を中心に、県内高校 4 校(平田高校、松江南高校、松江市立女子高校、開星高校)と包括的連携協定を締結するなど、高・大連携の取組を進めた。

[学生募集活動の取組]

○ 全学

- ・県内外の高校の進路指導者との懇談会を開催し、意見交換を実施
(県内：39 校 49 名、県外：9 校 9 名参加)
- ・教職員が県内外の高校を訪問し説明や意見交換を実施
(延べ、県内 112 校、県外 178 校)
- ・学生による出身校への広報活動として、母校訪問プロジェクトを実施(52 名)
- ・県内高校での大学説明会を実施(6 校 415 名の参加)
- ・県内高校長等との懇談会を開催(64 名参加)
- ・高校職員を対象としたキャンパスツアーの実施(21 名参加)

○ 浜田キャンパス

- ・令和元年度から、保護者説明会を開催（94名参加）
- ・自己推薦入試受験体験（90名参加）
- ・1泊2日模擬研究（18名参加）

○ 出雲キャンパス

- ・看護学志望者セミナーの開催（69名参加）
- ・管理栄養士セミナーの開催（91名参加）
- ・本年度初めて開催したアカデミックインターンシップには、県内14校から延べ100名の高校生が参加

※アカデミックインターンシップ

大学での通常の講義を実際に体験し、大学で学ぶことの意義や、学びそのものに対する興味・関心を高め、進路選択の参考としてもらうための取組

②キャリア

ア) 全学

- ・3キャンパスとも、昨年に引き続き高い就職率を維持した。
全学 98.9%（浜田 98.1%、出雲 100%、松江（短大）100%）
- ・一方で、県内就職率は、35.9%であり、昨年度（45.6%）に比べ、10%程度の減少となった。（浜田 16.4%、出雲 57.6%、松江（短大）65.8%）
- ・キャンパス毎には、昨年度比で大きな増減はなく、全学の県内就職率が減少した理由として、短期大学の四年制化に伴う影響が大きく、県内就職率の割合が高い短期大学の卒業生が減少（230人から80人）したことや、県内出身学生の割合が高い、松江キャンパス4年制（人間文化学部）、出雲キャンパス健康栄養学科が学部完成前のため、卒業生が輩出されないことによるものである。
- ・県内就職に向けた取組として、しまね協働教育パートナーシップや島根県中小企業家同友会との包括的連携協定を活用し、産業界との接点づくりのため、県内企業の協力を得ながら様々な取組を展開している。

（主な取組）

- ・地（知）の拠点大学における地方創生推進事業（大学COC+事業）の中で、島

- 根大学や産業界と連携して実施する、しまね大交流会に、278名の学生が参加
- ・県内就職率向上に向けて、島根県中小企業家同友会と連携し、キャリア講座での座談会、模擬面接実践編等の取組を実施
 - ・松江キャンパスの授業内において「企業人出前講座」を実施
 - ・長期・事業創造型インターンシップへの取り組みとして、以下の事業を実施
 - ・学生・地域（企業）にとって“学び・気づき”を得られるインターンシップを考える研修会を開催し10社が参加
 - ・石見地域の団体と長期実践型インターンシップを試行し2社が参加

※地（知）の拠点大学における地方創生推進事業（大学COC+事業）

平成27年度から、大学が地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先を創出するとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラム改革を実施する大学を支援することで、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的とする事業

イ) 浜田キャンパス

- ・授業アンケート等を活用しながら、学生生活の振り返りから自己理解を深め、「働くこと」や進路先の研究の方法を学ぶことを目的とする教育計画を策定した。
- ・3年次の秋学期に「キャリア実践プログラム」（非正規科目）を新たに設置し、自己の価値観や将来のキャリアビジョン等を明確にする教育計画を策定した。

ウ) 出雲キャンパス

- ・国家試験の合格率は看護師が96.1%、保健師が96.0%であり、助産師は100%を達成し、いずれも高水準の合格率を確保した。
- ・カリキュラムでは、早い段階から、自信の職業観を主体的に構想できるよう、1年次から、専門職のキャリアを理解するガイダンスや、保健師、助産師、看護師、管理栄養士、栄養教諭それぞれの職種におけるキャリアデザインを理解するための講座を実施した。

エ) 松江キャンパス

- ・保育士資格取得率が100%、保育士資格及び幼稚園教諭二種免許の併有率97.6%であり、いずれも高い取得率を確保している。
- ・地域文化学科では新規開講科目「キャリアデザインⅡ（2年次選択）」を新規に開講し、島根県中小企業家同友会会員企業からの課題提示に対して学生が解決策

を検討する課題解決型学習を外部講師主導のもと実施した。

- ・短期大学部においては、「キャリアプランニング」「キャリア・アップ講座」において、外部講師によるマナー講座や面接対策や、サービスとホスピタリティの考え方、技術を学んだ。

③その他教育・学生支援に関する事項

ア) 教育の質及び教育環境の向上

- ・教育内容の質を高めるための取組として、授業の内容及び方法の改善を図るために、学生による授業アンケート、授業アンケートへのフィードバックの外、教員相互の授業参観（授業公開）を実施しているが、アンケートの回収率や、授業参観への参加者は高いとは言えない。
- ・このほか、大学教職員の資質向上の取組みとして、FDセンターが中心となり、全学の教職員を対象とした研修会を開催するほか、教員の教育能力向上を目指し、学外で開催される教育研究大会（中国・四国地区大学教育研究会）へ参加し、その知見を3キャンパスで共有するなど、組織的な活動が行われている。

※FD（ファカルティ・ディベロップメント（Faculty Development））

教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称

- ・ICT環境の改善について、これまで、キャンパス毎に設定していたインターネット接続環境を全キャンパスで500Mbpsに改善・統一し、より安定的なネット環境の整備を進めるとともに、情報セキュリティ対策基本方針に従い、情報セキュリティレベルの向上に努めている。

イ) 学生生活支援の充実

○浜田キャンパス

- ・学生の修学支援や生活支援については、学生生活調査や、ミニアンケート等により、改善策の検討が行われている。
- ・障がいのある学生に対する修学支援については、障がいのある学生支援会議、教務委員会、学生生活委員会とともに、要支援学生のニーズ把握や、支援内容等を検討し対応した。
- ・また、あらたに学生ピアサポーターの学生配置や、UE-Netに加入し、中四国の教育機関と連携した取組等、学生相談体制の強化や、学生支援を充実させた。

※学生ピアサポーター

研修を受けた上級生が、初年次生の学習・学生生活を支援するための制度
大学が実施するオリエンテーションではカバーできないアドバイスを行う

※UE-Net

地域の初等・中等・高等教育のユニバーサルデザイン化を推進し、障がいの有無
に関係なく多様な児童・生徒・学生がその可能性を開拓できる修学環境・教育環
境を育成することを目的とした地域連携ネットワーク

○出雲キャンパス

- ・障がいのある学生に対する修学支援について、障がいのある学生支援委員会や個別支援チーム、関係部署、保健管理委員会の間で、定期的な情報共有の場を設け、支援・相談体制の見直しを行った。

○松江キャンパス

- ・担任教員やゼミ担当教員による相談やオフィスアワー制度を設けて学生生活についての適切な助言指導を行った。
- ・カウンセラーを男女2名体制にして、月2回のカウンセリングを実施し、学生がより相談しやすい環境を作った。

ウ) 経済的支援

- ・学生支援検討部会を設置し、国の高等教育無償化を受けられず経済的に問題を抱える学生の支援ができるよう、本学独自の奨学金制度の見直しを行った。

エ) ボランティア活動に対する支援

- ・ボランティア活動を奨励し、地域交流や、地域貢献活動を促進させることを目的に、「ボランティア・マイレージ制度」を設け、学生の主体的な社会貢献活動を支援している。
- ・3キャンパス合同の学生ボランティア交流会を開催し、学生ニーズや課題を把握のほか、情報共有を行った。

(遅れている点(課題がある点))

ア) 県内就職率

中期目標に掲げた、県内就職率の数値目標 50%に向けて、次の点について、一層の取り組みに期待する。

○ 浜田キャンパス

- ・県内就職率については、昨年度比3%の減となった。地元企業と連携した取り組みが行われているが、県内就職者の上積みができていない。(県内就職者 H30 年度: 37 人、R 元年度: 34 人)
- ・また、今年度、県内入学率を大きく伸ばし、今後も、入試制度改革により、県内出身学生の確保に向けた取組が予定されているが、県内就職に向け、取りこぼすことがないように、卒業年次に向けた取組強化が必要である。
- ・今後、大学と企業、県等が設立するコンソーシアムの取組等を通じて、学生が地元企業を知る機会の創出や、インターンシップの充実など、県内就職率を高める取り組みを着実に推進することが望まれる。

○ 松江キャンパス(人間文化学部)・出雲キャンパス(健康栄養学科)

- ・昨年度の就職実績には、四年制化により、令和4年3月に初めて卒業生を輩出する松江キャンパス人間文化学部、出雲キャンパス健康栄養学科について、当然ながら反映されていないが、両学部学科の就職状況については、これまでの大学改革を評価する指標として大いに注目しており、学生が就職活動を開始する今年度(令和2年度)からの就職先確保のための取組の着実な実施を望む。
- ・特に、短期大学から四年制大学に移行した松江キャンパス人間文科学部においては、県内就職先企業と大学との関係構築など、四大生の企業開拓に向けた取組への注力を望む。

イ) FDの取組

- ・教育内容の質を高めるための取組や教員の資質向上に向けた取組が行われているが、昨年に引き続き、アンケート回答率や教員フィードバック率に、キャンパス毎に取組みの進捗に差が生じている。
- ・特に、浜田キャンパスでは、昨年度より改善したが、授業アンケートの回答率、教員フィードバック提出率とも低く、昨年度実施したシステム改修など、回答率や提出率を高めるための対策が改善につながっていない。
- ・学生の授業評価を的確に把握し、授業の改善に活用できるよう、制度の効果的な運用に向け、更なる取組が望まれる。

(2) 地域に根ざし、地域に貢献する大学

(評価の視点)

- ・ 地域に根ざした大学として、積極的に地域に関与する姿勢を持ち、地域課題研究の推進や、地域の多様な学習ニーズへの対応など地域に貢献する大学を目指しているか。
- ・ 公立大学として、地域の求める人材を育成し、輩出しているか。

(特筆すべき点 (注目される点))

① 地域課題への貢献

○ 全学

- ・ 地域課題解決に資する専門知識と実践力を備えた人材育成の取組として、「しまね地域マイスター」認定制度を設けているが、総合政策学部、看護栄養学部に続いて、松江キャンパス人間文化学部においても「しまね地域マイスター」認定制度の運用を開始し、認定のため必修となっている『しまね地域共生学入門』を3キャンパスで開講した。
- ・ 昨年度のマイスター1期生8名に続き、浜田キャンパスの学生6名及び出雲キャンパスの学生2名が「しまね地域マイスター」の認定を受け、地域に貢献する人材を輩出することができた。

※ 「しまね地域マイスター」認定制度

地域課題解決に向けた実践力ある人材育成を行うための県立大学独自の制度
必修科目「しまね地域共生学入門」を始め、地域共生演習（ゼミ）など、基礎科目・
専門科目・演習科目を履修した学生に対し、卒業時「しまね地域マイスター」として認定する制度

- ・ 平成31年4月に設置した、しまね地域研究センターでは、子育て支援、観光、地域活性化、隠岐・中山間地域、地域教育をテーマとした研究を展開した。
- ・ 同センターでは、「しまね地域研究センタープロジェクト研究助成金」制度を開始し、採択された事業計6件（浜田2件、出雲3件、松江1件。採択額計2,500千円）が実施期間2年間の研究プロジェクトを開始し、自治体や中山間地域研究センター等と連携して地域課題解決に向けて取り組んでいる。

- ・地域貢献推進奨励金制度に平成 31（令和元）年度は全学で 16 件（浜田キャンパス 3 件、出雲キャンパス 11 件、松江キャンパス 2 件）の事業が採択（採択額計 4,995 千円）され、教員指導のもと、学生が県内の学外組織と連携し、県内全域で地域活性化、防災、住民の健康づくり、発達障がい児への支援といった多岐に渡る分野で学び、地域活動を体験した。

※地域貢献推進奨励金制度

学生の地域活動支援の一環として、主体的に地域活動に取り組む学生を対象に助成する制度。教員の指導のもと、学生が県内の学外組織と連携して、地域に積極的に足を運び、地域が抱える課題について、実践的に解決に向けて取り組む

- ・平成 31（令和元）年度は、浜田市との共同研究事業 5 件、益田市との共同研究事業 2 件の研究に取り組むとともに、浜田市と邑南町との「食」を通じた観光・文化交流協議会 1 件、島根あさひ社会復帰促進センター1 件、島根西部県民センター学生石見地域研究 4 件、島根県インターンシップ等受入企業改善提案事業 1 件の共同研究事業にも取り組んだ。

②地域と協働した社会貢献の推進

ア) 全学

- ・大学が取り組む地域課題解決に向けた活動を情報発信するため、K E N D A I 縁結びフォーラム（参加者 250 名）を開催し、教員及び学生が取り組んだ研究や地域活動の成果発表などを行い、地域課題の共有や研究成果の社会への還元を行っている。
- ・3 キャンパス合同学生ボランティア交流会を開催し、3 キャンパスの教職員及び学生が交流することで連携を強化した。

イ) 浜田キャンパス

- ・地元自治体等と連携し、小中学校学習支援事業（支援先小学校 9 校、中学校 3 校）や、「かなぎシェアハウス」入居学生による学習支援・地域活動への参加等を実施。

ウ) 出雲キャンパス

- ・看護栄養交流センターを窓口とし、タウンミーティング in 飯南町（参加者約 50 名）やジュニア・シニアキャンパスツアーの受け入れ（約 110 名）、近隣住民を

委員としたキャンパスモニター会議（2回開催）等を実施した。

エ）松江キャンパス

- ・しまね地域共生センターを窓口とし、近隣の幼保小中高との連携（おはなしレストランでの読み聞かせ、運動会等、学生ボランティアの派遣）を実施した。

③県民への学習機会などの提供

- ・令和元年度に3キャンパスの教員が実施した地域貢献活動取組数（兼業件数）は、合計630件（浜田キャンパス154件、出雲キャンパス252件、松江キャンパス224件）であり、数値目標の600件を越える取組を実施した。
- ・各キャンパスにおいて、公開講座や出張講座を開催したほか、令和2年2月20日に開催した「KENDAI 縁結びフォーラム」（参加者250名）で地域住民に向けて研究や地域活動の成果発表を行った。

(3) 北東アジアをはじめとする国際的な教育研究を推進する大学

(評価の視点)

- ・北東アジアをはじめとする国際的な教育研究を推進し、国際的にも活躍できる人材育成を進めているか。
- ・外国の大学との学術ネットワークの形成や留学生の派遣交流が積極的に行われているか。

(特筆すべき点 (注目される点))

- ・海外への派遣学生数 (留学生、研修等) を全学: 年間 180 人以上とする目標に対し、昨年度に引き続き、平成 31 (令和元) 年度も数値目標を超える 210 人を見込んでいたが、新型コロナウイルスの影響によって 2 月以降の研修が中止となったため、最終的な派遣学生数は 156 人となった。
- ・海外からの受入学生数 (留学生、研修等) を全学: 年間 100 人以上とする目標に対して、海外からの受入学生数 (留学生、研修等) は 107 人 (浜田キャンパス 80 人、出雲キャンパス 13 人、松江キャンパス 14 人) となり、数値目標を達成した。

(主な取組)

- ・短期海外体験プログラム「超短期マレーシア」を創設し、全学を対象とする募集に 37 名の応募があったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止
- ・以下の事業実施に向け、3 キャンパスで連携・協力した。
 - ・グローバルドリームハントの選考会、合同合宿 (6 月 29 日～30 日に江津市において開催)、しまね大交流会の出店
 - ・日本語・日本文化研修「松江コース」(7 月 10 日～16 日)等の留学生との交流促進事業の実施

III 自主的、自律的な組織・運営体制の確立

(1) 評価結果と判断理由

○計画項目の集計結果では、B評価（概ね順調）である。

- ・大学改革本部会議での検討を深めるため、各専門部会の設置や、ガバナンス体制の強化に向けた組織改編が行われた。また、外部資金の獲得に向け、インセンティブを促す制度の創設や配分額等の見直しが行われており、中期計画の達成に向けて、順調に進んでいると認められる

○ 以上により、中期目標項目評価としては、B評価（概ね順調）と評価する。

B	概ね順調	評点平均値 3. 1 3
---	------	--------------

(2) 実施状況

①組織・運営体制の確立

- ・入試や教育研究、就職などの情報を収集・分析・評価し、戦略的な大学運営を行うため、理事長の下にIR室を設置し、入試結果の情報を中心に分析を行い、その分析結果は、入試改革全学方針の策定に反映させた。
- ・平成31年4月から学長代行を設置し、大学改革本部会議のもとに設置する各検討部会の長に学長代行、副学長を充て、部会運営を円滑に実施した。
- ・大学改革本部会議では、障がいのある学生の修学支援等の検討や、独自の奨学金制度の見直しを行う、学生支援検討部会の設置や、出雲キャンパス、松江キャンパスの大学院設置の必要性について検討を行う大学院検討部会の立ち上げ、議論を行った。

② 経営基盤の強化（自己財源の充実に向けた取組）

ア) 研究費の配分及び外部競争的資金の獲得

- ・学長裁量経費に「学部長裁量枠」を新設し、各キャンパスの特性に合わせた研究の推進のため、各キャンパス学部長へ配分をおこなった。
- ・研究費については、平成31（令和元）年度から令和3年度に向けて、四大部においては段階的な削減（公立大学平均額相当までの削減）を行い、短大部においては、四大部と短大部の研究費単価格差解消のため段階的な引き上げを開始した。
- ・科研費の全学の申請率については、中期目標で掲げる全学60%以上に対して、

33.8%（浜田キャンパス 27.9%、出雲キャンパス：45.1%、松江キャンパス：26.2%）に留まり、昨年度(39.4%)を下回るも、採択率では、32.6%で、昨年度(25%)を上回った。

- ・ 科研費の獲得に向けた取組としては、昨年度導入した科研費申請書個別支援サービスによる支援や、各キャンパスで説明会を開催するほか、今年度新たに、学長裁量経費に「若手支援枠」を新設し、令和2年度の科研費に応募すること等を要件に、准教授以下の専任教員を対象に募集し、18名から応募があり、審査の結果、うち13件が採択された。

③監査体制の充実

- ・ 内部監査、監事監査、会計監査人監査の3つの監査を実施しており、監事監査では、出雲キャンパスで運営状況の説明及び実査による臨時監査を実施した。
- ・ 平成30年度内部監査を受けて取扱いを一部変更した私費会計や預り金が適切に管理されているか、内部監査を実施した。

(今後検討すべき事項)

○科研費等の外部資金獲得の取組

- ・ 申請率については、中期目標で設定した数値目標60%に対して、33.8%に留まる。
- ・ 令和元年度から、教員研究費の段階的な削減が実施され、また、科研費申請を前提とした学長裁量経費での「若手支援枠」の新設など、教員のインセンティブを促す取り組みが行われており、数値の改善については、今後の成果を待ちたい。

IV 評価制度の充実及び情報公開の推進

(1) 評価結果と判断理由

- 計画項目の集計結果では、A評価（順調に進んでいる）である。
 - ・昨年度受審した大学基準協会の認証評価では、基準に適合しているとの認定を受けた。また、情報セキュリティ対策基本計画に従い、情報セキュリティレベルの向上に向けた取組が着実に行われており、中期目標の達成に向けて順調に進んでいると認められる。
- 以上により、中期目標項目評価としては、A評価（順調に進んでいる）と評価する。

A	順調に進んでいる	評点平均値 3.50
---	----------	------------

(2) 実施状況

①評価制度の充実

- ・大学評価（認証評価）については、文部科学大臣の認証を受けた認証評価機関である公益財団法人大学基準協会の認証評価を受審し、同協会の大学基準に適合していると認定を受けた（令和2年4月1日から令和9年3月31日）
- ・このほか、法人評価委員会から指摘された事項について、その改善策を講じ、ホームページで公開した。

②情報公開の推進

- ・令和元年度中の情報公開請求は1件あり、期限内に処理をした。
- ・情報セキュリティ対策基本計画に従い、情報セキュリティレベルの向上に努めた。

(主な実施項目)

- ・情報セキュリティ委員会の委員及び全課室長を対象に、トレンドマイクロ社によるインシデント対応訓練を実施。
- ・学内メールシステム等で利用するソフトウェアへのログイン時に携帯電話やスマートフォン等を必要とする多要素認証を導入。
- ・メール上のリンクや添付ファイルのチェックを強化するサービスの対象を全学生・教職員へと拡大。

V その他業務運営に関する重要事項

(1) 評価結果と判断理由

- 計画項目の集計結果では、B評価（概ね順調）である。
あらたな広報媒体の活用に努めたほか、安全・危機管理体制の確保、人権の尊重など、いずれも、研修（訓練）実施や相談体制の確保などの取組が実施されている。中期目標の達成に向けて、概ね順調に進んでいると評価する。
- 以上により、中期目標項目評価としては、B評価（概ね順調）と評価する。

B	概ね順調	評点平均値 2.89
---	------	------------

(2) 実施状況

① 広報広聴活動の積極的な展開など

- ・各キャンパス学生の取組を紹介するテレビ番組を4件作成し放送
- ・県民へ向けたイメージアップを図るため、山陰中央新報へ広告を掲載
- ・JR松江駅、出雲市駅、米子駅にデジタルサイネージによる宣伝動画を掲載した。

② 安全・危機管理体制の確保

- ・浜田キャンパスにおいては、防犯パトロールの実施や交通安全に関するポスターの掲示により、意識啓発を図った。
- ・出雲キャンパスでは、4月に新入生を対象として、学生生活の安全に関する講演および防犯に関する講演を実施
- ・松江キャンパスでは、5月に交通安全教室、6月に防犯教室を実施
- ・3キャンパスそれぞれで、避難訓練および学生教職員に対する健康診断を実施

③ 人権の尊重

- ・3キャンパスそれぞれで学生教職員に対し人権に関する研修を実施
- ・キャンパスハラスメント防止委員会を設置し、学生相談員、所属相談員を配置して相談体制を整備することで、早期対応に取り組んだ。また、相談連絡窓口と相談の流れについて、「学習のてびき」等への明記や「学生相談のしおり」や文書等の配布により学生への制度周知を図った。

【中期計画主要数値目標の実績】

目標	目標値	実績値	大項目との関連
入学者に占める 県内学生の割合	全学：50%以上 [参考]R2 目標値 43%	46.8%	Ⅱ 大学の教育研究等の質の向上 (1) 高い知性と豊かな人間性を育み、 社会に役立つ人材を輩出する大学 【アドミッション】
国家試験合格率	出雲キャンパス： 100%	看護師 96.1% 保健師 96.0% 助産師 100%	Ⅱ 大学の教育研究等の質の向上 (1) 高い知性と豊かな人間性を育み、 社会に役立つ人材を輩出する大学 【キャリア】
就職率	全学： 第2期平均就職 率(96.8%)を上 回る	98.9%	Ⅱ 大学の教育研究等の質の向上 (1) 高い知性と豊かな人間性を育み、 社会に役立つ人材を輩出する大学 【キャリア】
県内就職率	全学：50%以上 [参考]R2 目標値 37%	35.9%	Ⅱ 大学の教育研究等の質の向上 (1) 高い知性と豊かな人間性を育み、 社会に役立つ人材を輩出する大学 【キャリア】
海外への派遣学 生数	全学：年間 180 人 以上	156 人	Ⅱ 大学の教育研究等の質の向上 (3) 北東アジアをはじめとする国際的 な教育研究を推進する大学
海外からの受入 学生数	全学：年間 100 人 以上	107 人	Ⅱ 大学の教育研究等の質の向上 (3) 北東アジアをはじめとする国際的 な教育研究を推進する大学
教員の地域貢献 取組数	全学：年間 600 件 以上	630 件	Ⅱ 大学の教育研究等の質の向上 (2) 地域に根ざし、地域に貢献する大 学
科研費の申請率	全学：60%以上	33.8%	Ⅲ 自主的、自律的な組織・運営体制 の確立

※) 参考値は、島根創生計画 (R2-R6) での KPI の令和 2 年度目標値

4 参考

(1) 学生確保の状況

① [入試志願倍率]

区分	H29 入試	H30 入試	H31 入試	R2 入試
浜田	5.07	5.42	3.79	8.90
出雲	3.60	3.60	2.53	3.54
松江(四)	—	3.14	4.12	7.90
松江(短)	2.41	3.98	3.18	3.04

② [入学者に占める県内者割合] (目標値全学50%) (単位：%)

区分	H29 入試	H30 入試	H31 入試	R2 入試
浜田	21.7	24.3	19.6	28.2
出雲	51.2	61.5	57.8	53.5
松江(四)	—	60.7	49.2	54.7
松江(短)	69.1	72.1	77.4	77.6

(2) 就職の状況

① [キャンパス別就職率] (単位：%)

区分	H28	H29	H30	R1
浜田	98.0	96.1	97.4	98.1
出雲	100.0	100.0	100.0	100.0
松江(短)	97.5	98.0	98.5	100.0

③ [県内就職率(就職希望者に占める県内就職者)] (目標値全学50%)

(単位：%)

区分	H28	H29	H30	R1
浜田	23.0	31.8	19.6	16.4
出雲	51.2	49.4	48.5	57.6
松江(短)	69.7	69.1	68.5	65.8

※各数値は、大学院、別科を除く。

(3) FDの取組みの状況

① [学生アンケート回答率]

(単位：%)

		H 2 8	H 2 9	H 3 0	R 1
浜田	春学期	41.4	44.7	35.0	42.3
	秋学期	34.6	38.3	30.5	25.4
出雲	春学期	98.8	99.9	97.7	79.8
	秋学期	100.0	99.5	98.8	75.2
松江(短)	春学期	77.0	83.7	65.4	71.5
	秋学期	65.1	58.3	61.8	79.3
松江(四)	春学期	-	-	84.7	79.3
	秋学期	-	-	81.0	76.5

④ [専任教員によるフィードバック提出率]

(単位：%)

		H 2 8	H 2 9	H 3 0	R 1
浜田	春学期	55.1	62.2	31.8	38.4
	秋学期	53.2	61.4	46.7	22.2
出雲	春学期	100.0	100.0	100.0	98.8
	秋学期	100.0	100.0	100.0	95.1
松江(短)	春学期	54.5	63.6	70.2	49.0
	秋学期	56.7	78.1	38.6	44.4
松江(四)	春学期	-	-	84.6	68.8
	秋学期	-	-	44.8	51.6